

《題目》産婦人科の先生のクレーム その2

「産婦人科の先生のクレーム」の続きです。

そこで、対応している先輩の了承を得て、私に対応することになり、以下のような説明をしました。

- (1) 用いているアルカリ性フォスファターゼ活性の測定法では、同酵素の作用により、反応液中に過酸化水素が生成され、この過酸化水素により基質が酸化され、最終的に濃度が決まる。
- (2) この基質濃度の変化量が、アルカリフォスファターゼの活性値となる。
- (3) 従って、血中に還元作用を持つものが存在すれば、過酸化水素と反応し、結果として、得られる活性値は低くなる。

以上の説明をした後で、『妊婦さんですから、あまり薬剤の投与はしていないかも知れませんが、如何でしょうか?』と聞いてみたところ、『この妊婦さんは、数種類の薬剤を投与している』とのこと。そこで、『私は薬のことは判りませんが、投与している薬剤の中に、還元能を持つものはありますか?もし、あれば、その薬剤の影響で結果が低く出た可能性があります』と説明すると、数分考えた後で、『あの薬は還元能があると思う』と言い、薬剤名と覚えている限りの化学構造を説明してくれました。測定反応に与える影響は、薬剤の還元能の強さ、血中濃度等により決まりますので、その医師の説明だけで、測定値がどの程度高くなるかは、当然言及できません。その医師は、このことも理解してくれ、最後に『この薬の還元能が非常に強ければ、結果が2倍とか3倍になることは考えられるか』と聞かれたので、『その可能性はあります』と答えたところ、笑顔になり『判った。ありがとう』と納得してくれ、医局に帰って行きました。

私は、理学部化学科卒であり、臨床検査技師の資格は持っておりませんが、今日、医療の中で、臨床検査は大変重要なものとなっております。それだけに、医師その他に信頼される存在となることが重要であり、そのためには、何が必要かを自ら考え、力量を上げていくことが必要であると思います。この事は、前回のコラムで書いた私的勉強会を主催していた某医科大学のA先生の教えによるものであり、そのような先生に出会えた事を、今でも感謝しています。

ここでは、私の実際の経験から医療現場での話になっていますが、どのような職種や職場においても、『言われたことだけやれば良い』とか『他部署の仕事を全く知らない』ことが、結果として、組織全体としての非効率化・非活性化に繋がっていると思います。では、あなたは、今後、何をすべきでしょうか?そして、会社の経営層や組織の上層部は、より効率的で活力のある組織にするために、何をすべきなのでしょう?